



研究部だより

令和6年8月29日発行

第2号

担当：川村

夏休みも終わり、2学期がスタートしましたね！まだまだ厳しい残暑が続くようですが、適宜休憩を取りながら頑張っていきましょう！今号では小学部低学年ブロック、高等部2学年のICTを活用した事例、そして小学部の雁田先生の研修報告を紹介します。

ICTを活用した授業実践①

小学部低学年ブロック 図工 単元名「春の飾りをつくろう」

授業者 両角・小学部低学年教員

対象生徒の様子

- ・小学部1・2年生の学習集団。1・2年生共にタブレット端末で動画を見ることが好きな児童が多いが、家庭や余暇時間で使用する頻度が高いため、遊びの道具として認識している児童もいる。
- ・授業では、教師が活動内容を提示するために、タブレット端末を使用している。
児童は生活単元学習でタブレット端末を使い写真を撮る活動をしたことがある。基本的な操作ができ安全に使用できる児童と、学習時間に指定された使い方（学習に関わるアプリだけを使うなど）をすることが難しい児童がいる。

ICT活用の意図

- ・作品作りの手順を具体的に動画で提示し、活動内容の見通しがもてるようにする。
- ・児童が好きなYouTube風の動画（手で操作する様子、YouTubeで使われている頻度の高いBGMを使用）を作成することで、児童の興味を引き、集中して動画が見られるようにする。また動画時間は2，3分程度の長さにするこで、飽きなく見続けられるようにする。

ICT活用の成果

- ・手順動画を最初から最後まで集中して見ることができた児童が多かった。
- ・動画で実際に紙を台紙に貼る様子や道具の使い方を具体的に见られるようにしたことで、作業の見通しをもち、作品づくりをスムーズに進めることができた児童がいた。

【動画作成方法】

- ①手元の様子が分かるように動画をiPadで撮影する。（スマホスタンドがあると便利）
- ②動画編集アプリ（iMovieなど）で撮影した動画の余分なシーンをカットする。
- ③2，3分以内におさまるように、1つの工程を十分に映した後は動画を倍速にするなどしてテンポ良く見られるようにする。
- ④フリーBGMをダウンロードして動画と組み合わせる。

ICTを活用した授業実践②

高等部 2 学年 生活単元学習 単元名「見学旅行事前学習」

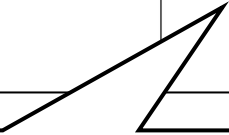
授業者 榎田・高等部2学年教員

対象生徒の様子

- ・生活単元学習や休み時間を中心に、タブレット端末を使用している。
- ・生活単元学習では、検索や文字入力、画像のコピー＆ペーストなどの操作を経験している。
- ・休み時間は YouTube で動画を見ている生徒が多い。
- ・タブレット端末を使用した検索方法は理解しているが、知りたい情報を的確に検索するためのワードが分からない生徒が多い。

ICT 活用の意図

- ・見学旅行の見学先を考える学習で、見学先を調べるための補助教材として、スプレッドシート（ディズニーランドのアトラクション・食べ物、スカイツリーのお店、羽田空港の昼食場所）を作成した。
- ・スプレッドシートには、アトラクションやお店の名前、写真、内容、公式サイトへのリンクなどの限られた情報を記載し、生徒が知りたい情報を見つけやすいようにした。
- ・スプレッドシートに公式サイトのリンクを貼り付けることで、情報をさらに深められるようにした。

アトラクションの名前	内容	所要時間	その他情報	動画
スプラッシュマウンテン 	丸太のボートでスリル満点の旅へ！ 	約10分	・最後のほうに落下有り ・座る場所によっては水がかかる	動画 

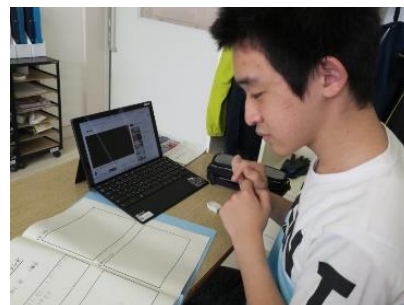
QRコードを読み取ると
ディズニーランドのアトラクションの
スプレッドシートを見ることができます！



リンクを押すと、公式サイト
(この場合は YouTube) に
飛べるようにしました。

ICT 活用の成果

- ・スプレッドシートを活用し、自分で気になるアトラクションやお店を選び、ワークシートに記入することができた。
- ・スプレッドシートから公式サイトに飛ぶことで、さまざまな情報を得ることができ、「〇〇がしたい」「〇〇が見たい」など具体的に考えることができた。



社会福祉法人侑愛会主催のもと、6月21日から7回にわたって行われる「自閉症講座 WEB 基礎コース」を受講中です。今回は第3回と第4回の内容について報告します。研修資料は雁田が持っています。今回載せきれなかった詳しい内容もまとめられているので興味ある方はお声掛けください。

第3回「課題分析について」 7月19日

1 課題分析とは

…様々な活動を支援・指導しようとするときに活用するアセスメントツール

2 何のためにやるのか

- ・ 指導が必要なところ、自立しているところ、構造化が必要なところ等を整理しやすくする。
- ・ 支援者側の支援の仕方、支援のポイント、目標設定など整理しやすくする。
- ・ 支援の一貫性を保ちやすくする。

3 やり方

① 支援・指導しようとする活動の手順を細かく分ける（工程を書き出す）

例 「手洗い」の手順を書き出すと…

行動項目	評価	コメント
1 水道のところへ行く		
2 蛇口を回し、水を出す		
3 手に石けんをつける		
4 手をこする		
5 手をすすぐ		
6 蛇口を回し、水を止める		
7 手を拭く		

② 工程に沿ってできること、できないこと、できそう等々をチェックする。

③ 支援指導プログラムの作成（支援計画・指導計画など）

④ 支援指導の実施

プロンプトの段階と出し方

低	V (Verbal)	言葉での指示や合図・促し
介入度	G (gesture)	指さし・ものを叩く等の動作
	M (Model)	やってみせる・見せながら
高	P (physical)	手添え・道具を一緒に持って 等

✓介入度の低い順に出す
 ✓プロンプトは一つずつ出す
 ✓出来なければ段階的に介入度を上げていく

構造化などを用いないフラットな状態で行う。最低限の指示（プロンプト）を段階的に示していく

○合格ープロンプト無しでできる

△芽生えープロンプト有りである

↑指導目標としやすい

×不合格ープロンプト有りでもできない

第4回「コミュニケーションについて」 8月2日

1 コミュニケーションの定義

- ・ 人が互いに意思・感情・思考を伝達し合うこと。
- ・ 言語・文字、その他視覚・聴覚に訴える身振り・表情・声など様々な手段、ツールによって行う。

2 自閉症のコミュニケーション

- ・ 障害の特性として苦手さ、脳の機能の違いとして苦手さ
- ・ コミュニケーションそのものの意味に気づけない
- ・ 伝えようとする意識もスキルも育ちににくい

3 コミュニケーションの指導（発信・実用的機能）について。

- ・ 言葉の指導ではなく【機能的なコミュニケーションの指導】が必要。
- ・ 単語の量を増やすよりも機能的に使う成功体験を増やす（お膳立て）
- ・ 非日常の訓練場面での指導ではなく、日常場面での指導が必要。
- ・ 日常の評価に基づいて目標を立て、計画的に機能的なスキルの獲得を目指す。

4 実際の指導の流れ

① コミュニケーションサンプルをとって評価（アセスメント）する

コミュニケーション行動	文脈	形態	機能
教員の手を引いて ドアの方に連れて行く	教室 昼休み 担任	動作	要求
教員にカードを渡す	教室 給食中 担任	絵カード	要求
教員にカードを渡して 声を出す	プレイルーム 生単 副担任	不明瞭な発語 +絵カード	要求

とり方のルール

- 1 自発的で意図的なものを記録する
- 2 誰かに向かっていることが明確なものを記録する
- 3 自発的で意図的であれば形態を問わない
- 4 50 個記録するか 2 時間を目安とする

② 目標の設定

…本人の得意なモードに少しだけ変化を加え目標にする（スモールステップ）

最も得意なモード

教室で担任に
「ドアを開けて欲しい」 という要求
動作 直接手を引っ張る

最も得意なモード

教室で担任に
「ドアを開けて欲しい」 という要求
絵カード (ドアを開けてください)

そのまま

そのまま

変える

③ 方法の検討

- ・ 構造化された指導 ・ 動機づけを高める工夫（コミュニケーションプレス）
- ・ 評価に基づく個別化 ・ 1対1の指導から徐々に ・ 上を目指すより拡がり

④ 実際の指導